

2/5 五種

NHKのBS-スペシャル「河瀬直美が見つめた東京五輪」（昨年12月26日放送）で事実と違う字幕が付けられていたことに対する説明が広がっています。問題発覚後には制作過程のすさんなチェック体制が明らかになりました。NHK側が経過説明を二転三転させてくることも不透明を招いてしまった。

NHK虚偽字幕

主張

「お前がおもてなしをしたくないからだよ。」

放送直後、視聴者から疑問が寄せられましたが、NHKは1月30日に再放送しました。「今朝の一部に不確かな内容」があったとおわびしたのは1月の田でした。男性は、五輪反対デモに参加する意

言訳と責任逃れに終始

問題の番組は、映画監督の河瀬元が、五輪公試記録映画を製作する現場に密着したドキュメンタリードラマ。映画製作チームに協力した映画監督の島田角栄氏が五輪開催に批判的な街の人々の声を聞き、場面で、NHKは「五輪反対派」に参加してくる「この男性」、「実はお金を使ひりて動員されて

すべての経過を明らかにせよ

向は示したとされます。が、実際には参加したかは不明で、金銭授受についても確認されていません。

報道を統括する大企画のよくな理解を与えたと訂正し謝罪しました。眞面目に検証する立場を欠いたNHKの不誠実な姿勢は盟大です。

複数の視聴者団体は経過を明りかにするためにNHKに申し入れました。五輪反対デモの主催団体は、金銭でデモ参加者を集めただけに付した上に、世論調査でも開催に賛成するような設問変更をしたつしました。聖火リレー中継

根本から問われています。放送倫理・番組向上機構（BPC）の放送倫理検証委員会は、番組制作過程などについて、NHKに文書で報告を求めました。NHKは、番組の企画が成立した経緯、取材・撮影、編集作業などを過程を全て調査し、明らかにする責任があります。

報道を続け、大会能

橋本から問われています。

「放送前に事実確認をアプローチ」
サーから指示された担当ディレクターが男性に直接取材せず、島田さんは「確認しただけだった」と説明しました。しかし、島田監督は「放送前にディレクターからの事実確認はなかった」として抗議しました。NHKは島田氏に確認したか
NHKが「(五輪)開催の機運を高める編成」(2021年度「国際放送番組編成計画」)を掲げ、内放送番組編成計画で五輪開催の旗を振りたいとしたところ無理ではあります。NHKが

「口口ナ福での五輪開催に突き進む」の「五輪炎」の声を伝えなかつたいわせ難れあした。上へ書くの異論を封じ込めた「憲図がすむてみえます。

では約3秒間を経て治療から「五輪返投」の声を吐えなかつ